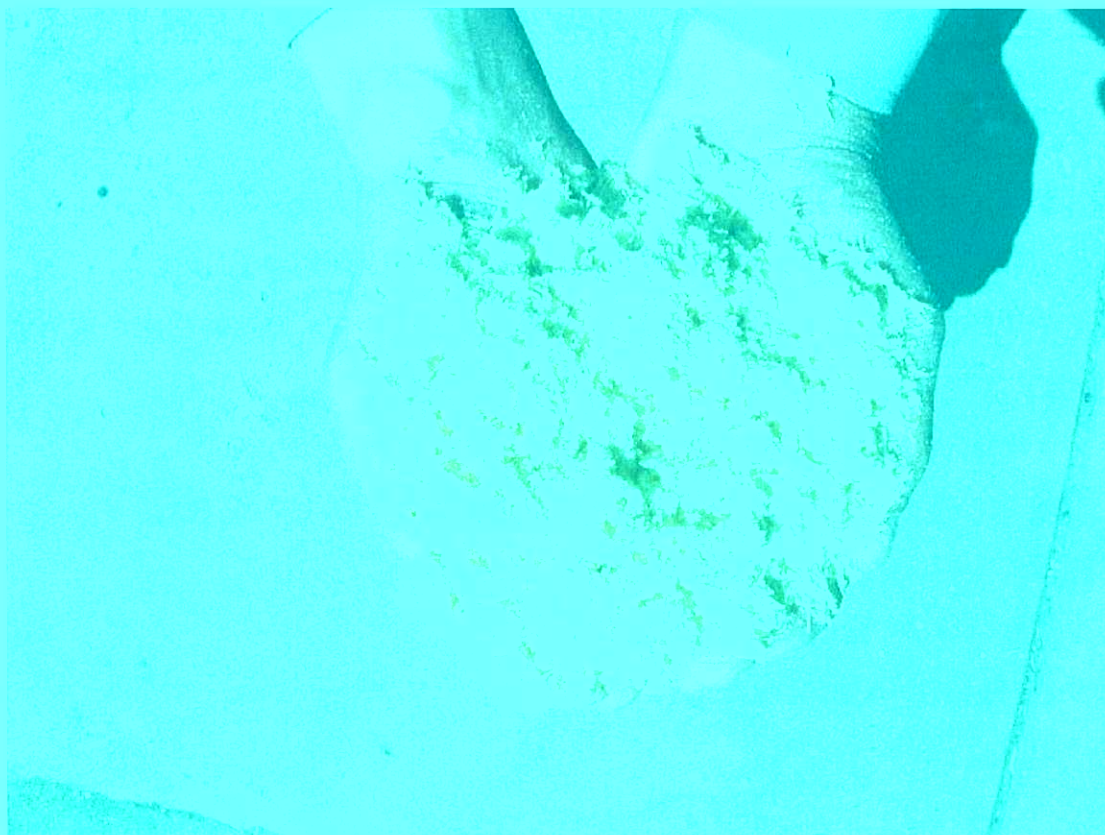


Rub-Machine

採掘機用・マンショングレーブ説明資料



Rub-Machineはあらゆる植物を強い力と高温で磨り潰し
ふわふわな状態にします。

握りしめても痛くない、そんな感触が、今までの機械で
加工された物との性能の差の証明です。



株式
会社

サンケンエンジニアリング

環境事業部

福岡県糟屋郡篠栗町大字尾仲七苦501-1

TEL:092-957-4380 FAX:092-947-1379

E-mail:sato@sanken-eng.co.jp

URL:<http://www.sanken-eng.co.jp>

はじめに

今、戦後の工業化一辺倒の社会が変わろうとしているように思われます。物の豊かさより心の豊かさを求める社会です。健康で安心して暮らせる社会です。

食の安全、食料自給率等の問題を通じて農業への関心も高くなっています。その中で化成肥料・農薬を減らし、有機物をより有効的に利用した農業への転換も図られています。

畜産畜民の推薦脚ルはかた川進ノていすしよが、前向社、比止其等、其土て、さし

ラブ・マシーン機械本体の特徴

①剪定枝、竹、ツル性植物、草等が前処理なしで直接投入できるため、機械が1台で処理可能。メンテナンスコスト・ランニングコストが低減できる。

条件：SRM-15=最大直径φ65mm

SRM-50,-100=最大直径φ100mm

ただし、竹の場合は先端を割れば大径物まで投入可能です。

②また、大きいものは前処理しても投入可能。

③刃物の数量・形状の変更により処理物の加工粒度の調整が可能。

④2軸スクリー式シャフトなので曲がり・折れ等の破損の心配がほとんどない。

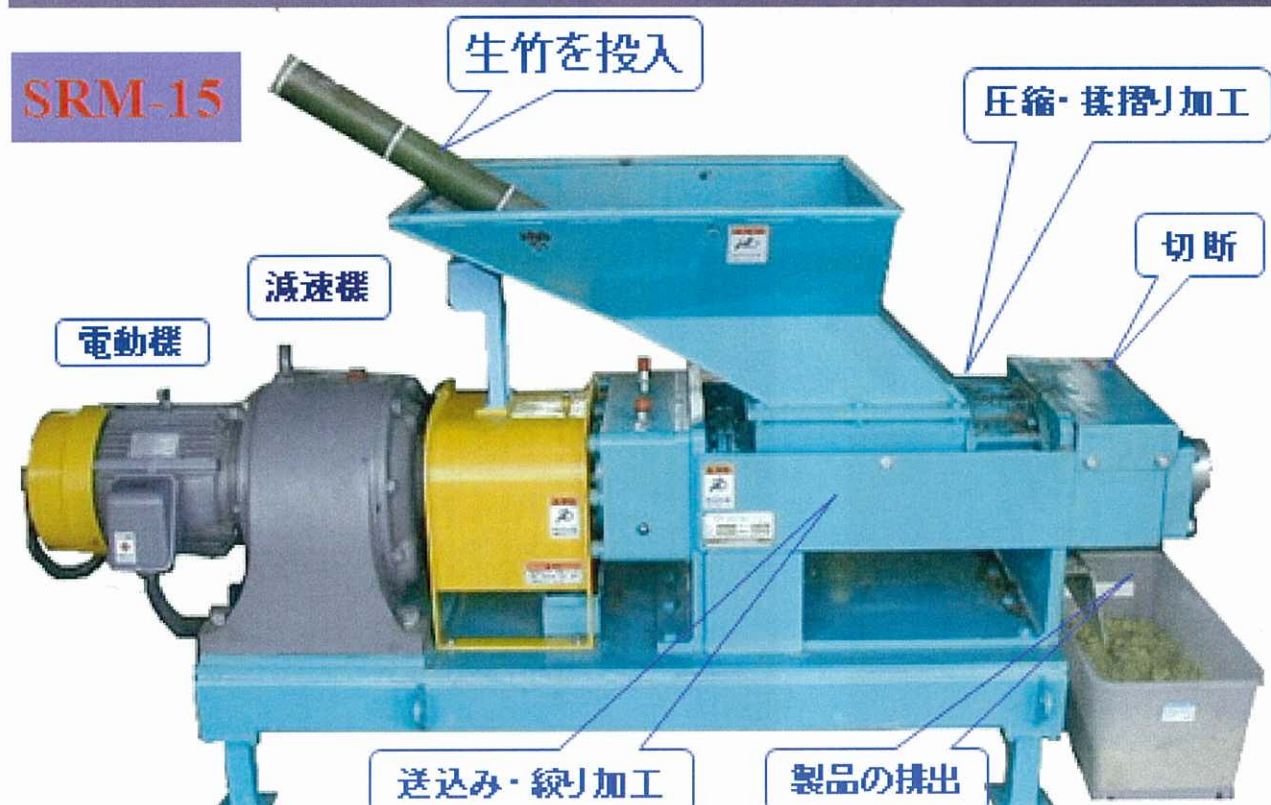
⑤電動モーター式で作業音がほとんどしない静音型。

⑥低速・低振動なので安全性が高い。

⑦自動反転機能付きでかみ込停止しないため使いやすく故障が少ない。

⑧独自の制御方式で効率よく電気を消費するため省エネを実現。

ラブ・マシーンの構造



ラブ・マシーンで加工された解砕繊維の特徴

解砕繊維はチップパーで加工されたチップ、おが粉製造機で加工されたパウダーと違い、ラブ・マシーンの中で磨り潰されています。その為、他の機械で加工された粉碎物とは違う様々な特徴があります。

- ①植物を機械内で「もみ・すり」加工を「高温・高圧」で行うため、加工物の粒径が小さくなり、表面積は大きくなる。とくに、0.5mm以下の微粉の占める割合が他の機械加工品にくらべると非常に多い。また、種子・雑菌等の死滅割合も高くなる。
- ②植物の組織を破壊または傷つけているので、堆肥化の場合、発酵速度が速く高速堆肥化が可能となる。その為堆肥化施設も縮小できコストの低減も図れる。
- ③製品にふわふわ感があり、加工物の先端が針状になりにくいので、畜舎敷料として利用しやすい。
- ④竹の場合は、ラブ・マシーンで加工した生の状態の解砕繊維を直接畑に施用でき、他の機械での処理と違い完熟するまでの時間が節約でき、設備も極小となる。

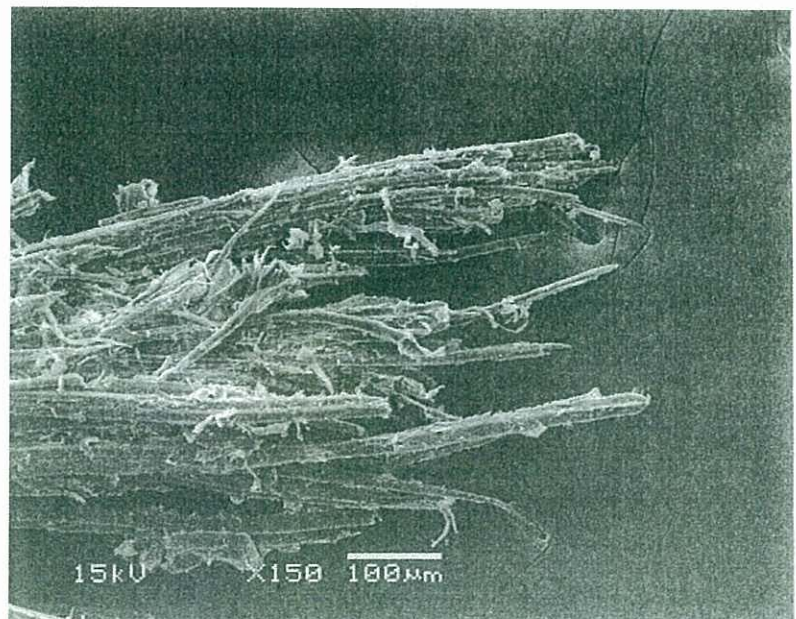
生ごみコンポスト用基材として使用した場合は、

- ・菌・微生物の住処として最適な形状
- ・竹床材自体の分解が早い
- ・糖・ミネラル分が菌・微生物の活動元
- ・竹の持つ消臭効果



生ゴミの分解が早く
悪臭も少なく
完熟までの時間も短くなる

顕微鏡拡大写真



孟宗竹の解砕繊維

先端が磨り潰され揉みほぐされている